

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 齋藤 昇一
 事務局長 黒澤 敏行
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 ㈱ 有 伸 商 会
 TEL (011) 814-6211

第40回 全国学校図書館研究大会 神戸大会 アクティブ・ラーニングを支える学校図書館の在り方



北海道学校図書館協会 会長 齋藤 昇一
 (札幌市立啓明中学校 校長)

記念すべき第40回の全国学校図書館研究大会神戸大会が、8月8日(月)～10日(水)の三日間、震災からの復興遂げた神戸市において開催されました。会場となったのは神戸国際展示場、神戸学院大学で共にポートアイランドに位置し、神戸空港からもほど近くとてもアクセスの良い場所でした。2000名を超える全国各地からの多くの参加者で、開会式、全体会、記念講演と開会行事が続く国際展示会場は熱気に溢れていました。

今年も講義、報告、ワークショップ、実践発表等100以上によって構成された多様で多彩な分科会が用意されていました。これは現在教育界で話題となっている学習手法である「アクティブ・ラーニング」を取り上げ、能動的な学習意欲を高めるために、学校図書館がどのように役立つのか、またどのようなことができるのかという可能性を探ることを意図し、さまざまな視点からのアプローチの試みでもありました。したがって、三日間で参加できる分科会は限られましたが、次期学習指導要領改訂を見据え、とても貴重で有意義な研修、情報収集の機会となりました。

8日(月)は開会式、基調提案、記念講演の児童文学作家岡田淳氏による「物語と子どもたち」に始まり、D-①講演「国立国会図書館国際子ども図書館の概要と学校図書館協力」、F-①講義「読み聞かせの指導について」に参加し、夕方から始まる全国各地の図書館人との交流会である「学校図書館の夕べ」でも懇親交流を深めることができました。9日(火)からは研究テーマに掲げら

れている「アクティブ・ラーニング」との関わりから、教科に活用する探究型学習についての見識を深める講義に参加しました。併せて、司会を務めさせて頂いたD-⑥講演「文部科学省の学校図書館施策」では文部科学省初等中等教育局児童生徒課の坪田知宏課長様から「今後の学校図書館に対する期待」を拝聴させて頂く機会を得ることができました。

坪田課長様のお話の中で、学校司書のお話が現在札幌市においても、中学校への配置が遅まきながら進められている現状の中、私自身の課題意識と合致して大変興味深いものでした。「学校司書の資格・養成等の在り方に関する作業部会」において論議が進められているというものでしたが、学校司書ならではのスキル、新しい養成科目について検討を加えているとのこと。具体的なあり方としてどの様に作業部会から提言がなされ、施策として反映されていくのか、興味深く注視していきたいと思いました。

また、最後に学校図書館運営で今必要なのは、管理職、とりわけ校長のリーダーシップであるというお話も私の心にすんと落ち、長野県茅野市のある校長先生は、自分の名刺に「〇〇学校図書館長」という肩書を印刷している事例紹介も心に響くものでした。今後、課題探究的な学習に必要とされまた、チーム学校としての期待される学校図書館の確かな未来像を大きく描くことのできる実りある研究大会でした。



第40回全国学校図書館神戸大会に参加して 学校図書館と学校司書の在り方を考える

北海道学校図書館協会 研究部長 山田佳子
(札幌市立上白石小学校 司書教諭)

8月8日(月)から10日(水)まで、3日間にわたって、神戸大会が開催されました。関西の暑い日差しの中、海が見渡せる神戸学院大学ポートアイランドキャンパスを会場に、全国からの熱い発表、討議が行われました。

今回の大会テーマは「アクティブ・ラーニングを支える学校図書館の在り方」。文部科学省担当者や全国SLA理事らによるシンポジウムや、新聞活用の仕方、学校図書館の在り方に関する実践発表などが行われました。子どもたちの豊かな学びを支えるためには、学校図書館が欠かせない存在であることを再認識するとともに、学校全体で活用していくには、どのような手立てが必要かを、より考えていかなければならないことがわかりました。

また、学校司書に関しては、従来の学校図書館運営や授業での連携に関する発表に加え、その資格や研修に関するフォーラムが行われました。学校図書館法の改正により、全国的に学校司書の配置が進んでいますが、全国の先進的な地域においても、その職務条件や立場には大きな差があります。それは、北海道においても状況は同じです。司書教諭とともに学校図書館を支える両輪として、その在り方について深く考えさせられました。



最も時間が短く感じたのは、「こそあどの森シリーズ」でおなじみの岡田淳氏による記念講演です。神戸市内で図工教諭として38年間、子どもたちと触れ合う中から生まれた作品であること、漫画家としての顔ももっていることなど、創作の秘密にふれることができました。

本大会で学んだことを、これからの北海道の学校図書館活動の振興に生かしていけるよう、本協会の研究を進めていきたいと考えています。

「良書は読者が作る」に納得 ～参加した分科会で学んだこと～

札幌市立新陵中学校・宮の丘中学校 学校司書 浅村麻姫子
札幌聖心女子学院 非常勤講師

2年前の甲府大会で初めて「全国大会」に参加し、分科会で実践発表をさせていただきました。今回は2回目の全国大会。純粋に「勉強」をする目的で参加しました。

全国大会は申込から既に始まります。2日半の日程の中で、実践発表、講演、講義、実習、ワークショップ、シンポジウムなど、103もの分科会が用意され、そのうち選択できるのは、たった8つなのです。「どれも参加したい!迷う!!」という状況の中で、参加したプログラムはどれも魅力的なものでしたが、私にとって特に得るものが大きかったのは、「選書」と「ブックトーク」の分科会でした。

分科会「全国SLAの選定と学校図書館の選書」の講師は、全国SLA選定部長の内海淳氏。雑誌「学校図書館」に毎号掲載されている“全国SLAの選定図書”の選書過程を詳しくお聞きすることができました。出版されている本の8割ほどを、全て実物に目を通して選定していること、内容が良くても製本の弱いものは選ばないこと、近年、体裁はとつきやすいがテーマは比較的難しく、情報量が少ないというような「編集とテーマの難易度がミスマッチ」している図書が多く見られて残念であること、調べ学習向けの図書、特に小学校向けのセット図書には現在の専門家の見識とは違う「一般常識」に沿って内容が書かれているものがあり(ということは、選定時に内容もチェックしている!)、著者・編者を確認することが重要であることなど、多くのことを知りました。「これでもいいや、と妥協して買うと、出版社にそれでよいと思われてしまう。学校図書館に置く本をきちんと選ぶことで、良書ができる。まさに“良書は読者が作る”のです。」との言葉を心に刻み、選定図書を今まで以上に活用してよりよい選書をしようという思いを強くしました。

また、全国SLA参事の小林功氏による「心に届くブックトーク」では、自称“ブックトークの伝道師”小林先生のブックトークの理論と実践に触れることができました。ブックトークの成否は、子どもが本を手取るかどうかだということ。ブックトークの後で、必ず本を手取る時間を保証してほしいこと。一方的に話して終わりでは不十分で、子どもに「あとで」はない、など、ドキッとしつつ納得することばかりでした。実際のブックトークも魅力的で、楽しいひと時を過ごしました。

全国大会、というと、参加してみるまで「難しそう」「敷居が高い」というイメージでしたが、そんなことはありません。偶然近くに座ったご縁で、各地からの参加者との交流もできます。開催地は遠いこともありますが、北海道からも今後さらに多くの方が参加し、大会で得たものを持ち帰って地元の仲間との学びに生かすことができれば、と思いました。

開催地のご準備と当日の運営、そして全国から集い、発表や講師をされた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

高文連図書専門部

第38回全道高等学校図書研究大会(北見大会)報告

第38回全道高等学校図書研究大会(道高文連主催)が、10月13日、14の両日、北見市民会館で行われました。参加者は全道各地から生徒408名、教職員122名の計530名です。今年の大会テーマ「“読書空間”創造。～どうせなら、刺激的に～」のもと11の分科会と全体講演を中心に、図書館・図書委員の活発な研修や交流がなされました。

1日目は、当番校の北見緑陵高校吹奏楽部による歓迎の演奏にはじまり、日ごろの図書館活動をステージで発表する「図書館活動(T-1)グランプリ2016」で会場は一気に盛り上がりを見せました。午後は、11の分科会にそれぞれ分かれての研修です。第1分科会「どうせなら！魅力的な学校図書館と日常の運営」ではどうすれば魅力的な図書館を作ることができるのか、局員同士で活発に議論し、報告しあう様子が見られました。第4分科会「プロに学ぶ本のディスプレイ」では街の小さな書店ではどんな仕事をしているのか、実際に体験してもらいました。第5分科会「レファレンス・スキルアップ」では、目的の本を探し出すための心構えやツールを学び、そのあと北見工業大学の図書館を見学し自分たちのスキルを高めている様子が印象的でした。夕方には「ゆるゆる交流会」という名のとおり、生徒達が自作した「しおり」やディスプレイの交換を通して交流を深め、同時に特別企画展としてオホーツク出身の写真家・吉田純氏による「写真を読む」と題したトークが実施され、実りある1日となりました。

2日目は、作家の関川夏央氏による記念講演「樋口夏子の挑戦」を参加者全員が聴講したあと、コンクールの表彰式が行われました。「図書館報コンクール」は参加48校の中から、札幌南高校が6年連続で最優秀賞に選ばれ、優秀賞に小樽湖陵、釧路湖陵、札幌白石、札幌月寒の4校が、優良賞に北広島西、北見北斗、札幌稲雲、札幌藻岩、清水の5校が選ばれ、奨励賞12校とあわせて計22校が受賞しました。また、「図書館活動(T-1)グランプリ2016」は、石狩南高校がグランプリを受賞しました。

本大会は年に1度、全道の図書館・図書委員の生徒が集まる貴重な交流の場です。このような素敵な大会が今年も無事に行われましたこと、当番校の北見緑陵高校の皆さまはじめ、主管として準備を進めて来られた図書専門部、オホーツク支部の各校の皆さま、そして全道からお越しいただいた生徒の皆さま・教職員の皆さまをはじめ関係者の皆さまに深く感謝いたします。来年は、釧路でお会いしましょう。

文責：北海道学校図書館協会 事業部長 図師 広光

全道研究部長会から

北海道学校図書館協会第49回全道研究部長会が9月24日(土)、25日(日)の両日、かでの2・7で行われた。

1日目の前半には、平成29年度に開催が予定されている北海道学校図書館研究大会札幌大会についての概要が審議された。札幌支部の木村佳子大会事務局長より大会の概要やこれまでに内定している公開授業会場校などが提案された。大会日程や会場間移動、セッションのなどの内容について意見が出され、来春1月の研究部長会での運営事務局からの提案を待つこととなった。後半には、札幌大会におけるテーマ・研究内容の審議が行われた。札幌支部の研究部長・志村知子先生からは、札幌大会の研究テーマならびにテーマ設定の理由の原案が発表され、研究テーマの意図する内容についてより内容を的確に表す文言への修正を検討すべきなど活発な意見交換がなされた。札幌大会の概要発表と構想検討後には、苫小牧支部の三橋幸奈先生と十勝地区支部の岩井洋美先生から、それぞれの支部の活動状況の報告があった。

2日目には、前日に引き続き道内各支部からの活動状況の報告が行われた。札幌支部からは、札幌市の教育の特色としての全市的な「読書」啓蒙運動、さらには司書教諭の実務の充実のための広報・研修活動が志村知子先生より報告された。函館支部からは、支部構成メンバーの減少・高齢化や作文指導の充実が課題であることが加茂有希子先生より報告された。小樽支部の田代和花子先生からは、函館支部と同様支部構成メンバーの減少が深刻な問題であること、また「学校図書館運営マニュアル」の改訂に向けた取り組みなどが報告された。空知地区支部の古関亮子先生からは、支部内の各学校での学校図書館クリニックを順次実施していく準備状況などが報告された。旭川支部の丸田直美先生からは、市内全校で学校司書(学校図書館補助員)が配置されている状況や学校司書と司書教諭の連携の在り方について研修と実践を深めている状況などが報告された。世代交代や図書館担当職員転出による支部メンバーの確保が喫緊の課題であるという報告がなされた。釧路支部の原田亜美先生からは、支部の活動を支えていく構成メンバーが充足していない現状ではあるものの、各学校間で情報交流をもちながら図書館研修を充実させていこうとしている状況について報告された。最後に十勝地区高等学校の高桑里佳子先生からは、帯広大谷短期大学准教授の大平剛氏を招いての、図書館を活用するための情報メディアについての講演について報告された。

来年度の札幌大会に向けた大まかな内容確認や、道内各支部の最新の活動状況を相互に交流することができた会議となった。

文責：北海道学校図書館協会 総務部長 村山 知成



『森越 智子さんの小学校での講演会』開催

平成28年7月11日 札幌市立北園小学校



今回、青少年読書感想文全道コンクール小学校高学年の部の北海道指定図書に選ばれている「生きる」の作者森越智子さんに、ぜひ子どもたちに直接お話をさせていただきたいとお願いをしました。子どもたちの前で話をされるのは初めてのことでしたが、快く引き受けてくださいました。森越さんが札幌に来てくださるとのことから、7月10日（日）に大人向けの講演会、そして、7月11日（月）は、午前中に北園小学校、午後は厚別南中学校でお話をいただくという過密なスケジュールとなってしまいました。そうした中でも、森越さんは温かな微笑みを浮かべられながら、5・6年生の児童133名の前に登場してくださり、子どもたちには貴重なお話を伺う機会となりました。

「未来のために伝えたいこと」～劉連仁の物語を通して伝えたいこと～と題して始まったお話は、「生きる」の本の概要を追いながら、現代の子どもたちにも状況が理解できるよう、具体的でたいへん分かりやすいものでした。ご自身がお母様としてお子様を育てられたご経験を活かして、小学校高学年の子どもたちの理解力を十分考えられての内容でした。森越さんはこの本について語られる中で「人の命の強さ」「生きることの意味」「人間の尊厳」ということを子どもたちに考えさせようと言われていらっしゃるのだと感じました。正直、子どもたちにこのお話の重い意味が伝わるであろうかという一抹の不安を感じていた私でしたが、柔らかな温かみのある語り口で詳しく丁寧に噛み砕いて語ってくださり、現代では想像できないような厳しい状況について、子どもたちがしっかりと理解でき、真剣な表情で食い入るように聞く姿がたくさん見られる会となりました。

終了後、代表の子どもが感想を語る場を設けましたが、どの子も自分の思いを伝えたいと、全員が手紙を書き、送らせていただきました。森越さんからは、ご丁寧にも学級ごとにきれいな便箋にしたためられた、感謝と命を大切にすることへの思いが溢れたお手紙を頂戴しました。また、私にも、こうした感想を書いた子どもたちが未来を担っていくことを頼もしく思いますとのお手紙をいただきました。



温かな思いとともにしっかりと「生きる」ことを伝えてくださった森越さんのご健勝と、これからもますます人間の真髄に触れる深い著述を重ねられることを祈念し、感謝の思いを込めまして本校で講演会を開催したご報告とさせていただきます。

文責：北海道学校図書館協会 副会長 栗原 靖 (札幌市立北園小学校 校長)

北海道学校図書館研究大会札幌大会 平成29年9月1日(金)～2日(土)に開催 ～時計台の鐘が鳴る街札幌から皆さまの参加をお待ちしています！～

札幌支部では、平成28年度の年間計画に第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会の開催に向けた取組を位置付け、現在一丸となって準備を進めています。

この間、5月には室蘭支部との引継を行い、室蘭の研究成果と準備段階での苦労が詰められた9箱の段ボールをいただきました。お休みにもかかわらず、親切に対応していただいた八丁平小学校の北尾教頭先生（室蘭大会事務局長）、長野先生（室蘭大会研究部長）、本当にありがとうございました。

札幌支部では、これまで5回の大会運営委員会を行ってきました。大会組織の立ちあげ、大会日時や日程の決定、大会会場の検討、記念講演講師の検討、授業者・発表者の決定と、話し合うべき課題は多く、悩みながらも検討を進めてきました。

9月9日には、第1回の授業者・提言者研修会を開き、授業者・提言者が一堂に会して顔合わせを行いました。札幌大会の概要を確認し、学校図書館の授業について研修を行うことができました。学校図書館研究大会での授業や提言は初めてという方もいるので、全国SLAスーパーバイザーである佐藤敬子様を講師としてお招きし、「読書指導」「学び方の指導」「資料活用学習」の三つについて、研修を深めることができました。

また、9月24日～25日に行われた全道研究部長会において、札幌大会についての概要を説明しました。今後各支部には、提言者や司会者、助言者についてご協力をお願いすることになります。どうぞよろしくお願い致します。

札幌大会では、授業会場の一つに絵本図書館（本年11月に開館）を予定しています。絵本に特化した札幌で初めての図書館です。また、IBの学習方法を取り入れた課題探求的な学習を行っている、札幌唯一の中等教育学校、市立札幌開成中等教育学校での授業も予定しています。この他、魅力的なセッションの開設に向けて、知恵を絞っているところです。

時計台の鐘が鳴る街、札幌で皆さまの参加をお待ちしております。

文責：北海道学校図書館研究大会 札幌大会事務局長 木村 佳子 (札幌市立あやめ野中学校 校長)



第28回読書感想画コンクール・第4回全道コンクール募集要項

- 1 主催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書(推薦「北海道青少年のための200冊」)(2) 指定読書(主催者が指定した図書)
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 平成28年12月26日(月)
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒
満20歳以下に限る。(1996年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切～4つ切)とする。
※絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項のものを使用)※作画感想は原則として自筆とする。
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・ビデオ・DVD等の場面をまねたものは審査の対象としない。
- 7 応募に当たって
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ☎060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社
『第28回読書感想画コンクール・第4回全道コンクール』係
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞
2) 学校賞～上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校
※各部上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	価格(税別)
小学校低学年	くじゃくのジャックのだいたっそう	井上 よう子 (作) くすはら 順子 (絵)	文研出版	1,200円
	脱走ペンギンを追いかけて	山本 省三 (作) コマツ シンヤ (絵)	佼成出版社	1,300円
	いっぽんの木のそばで	G. ブライアン・カラス (作) いしづ ちひろ (訳)	BL出版	1,700円
	文房具のやすみじかん	土橋 正 (文) 小池 壮太 (絵)	福音館書店	1,300円
小学校高学年	ガラスの壁のむこうがわ	せいの あつこ (著)	国土社	1,400円
	幽霊魚	福田 隆浩 (著)	講談社	1,300円
	クジラに救われた村	ニコラ・デイビス (文) アナベル・ ライト (画) もりうち すみこ (訳)	さ・え・ら書房	1,300円
中学校・高校	空から宝ものが降ってきた! : 雪の力で未来をひらく	伊藤 親臣 (著)	旬報社	1,500円
	車夫 白をつなぐ 戦火の三匹 : ロンドン大脱出 すしのひみつ 誰も知らない東京スカイツリー : 選定・交渉・開業・放送開始…10年間の全記録	いとう みく (作) まはら 三桃 (著) ミーガン・リクス (作) 尾高 薫 (訳) 日比野 光敏 (著) 根岸 豊明 (著)	小峰書店 小学館 徳間書店 金の星社 ポプラ社	1,500円 1,400円 1,600円 1,300円 1,400円

第42回 平成28年度 青少年読書感想文全道コンクール

北海道指定図書

北海道の先生がおすすめする本

小学校低学年の部



カボチャのなかにたねいくつ?

マーガレット・マクナ马拉/作
G.ブライアン・カラス/絵 真木文絵/訳
フレーベル館 定価1,300円+税
教室に置かれた大中小のカボチャ。たねがいくつあるか調べてみることに。予想と観察に基づく実践授業が始まります!

ドングリ・ドングラ



コマヤスカン/作
くもん出版
定価1,200円+税
海の向こうの火の島めざし、ドングリたちは旅に出た。冬を越え、海を渡り、進む彼らの目的は…。勇気と希望の物語。



みずたまのたび

アンヌ・クロザ/作 こだましおり/訳
西村書店 定価1,300円+税
さまざまなかたちに姿をかえ、いろいろな生き物に出会いながら地球をめぐる「みずたま」の冒険!美しいイラストの科学絵本。



ちっちゃなサリーはみていたよ

ジャスティン・ロバーツ/文 クリスチャン・ロビンソン/絵
中井はるの/訳 岩崎書店 定価1,400円+税
一番小さいサリー。友達がいじめられ心を痛めますが、周りは無関心。本当にそれでいいの?サリーは立ち上がります。

小学校中学年の部

ノックノック ~みらいをひらくドア~



ダニエル・ビーティー/文
ブライアン・コリアー/絵
さくまゆみこ/訳
光村教育図書 定価1,400円+税

大好きなパパがいなくなった。ぼくにはまだ教えてもらってないことがたくさんある。やがてパパから手紙がとどきー。

ぞうのなみだ ひとのなみだ



藤原幸一/著
アリス館 定価1,400円+税

ぞうのポロンはお母さんといつもいっしょ。森のおくの田んぼで、稲を食べたお母さんは人間にうたれ…。親子の愛を描く。

お昼の放送の 時間です



乗松葉子/作
宮尾和孝/絵
ポプラ社 定価1,200円+税

放送委員になれたのに、ペアの子のせいで意気消沈のかえで。交わらないかと思われた女子と男子のまぶしすぎる交差!

小学校高学年の部

生きる 劉連仁の物語



森越智子/作
谷口広樹/絵
重心社 定価1,600円+税

1944年9月、日本軍により中国から連れ去られた劉連仁。過酷な炭鉱労働から逃亡し北海道の山中で一人生き抜いた真実の物語。

大津波のあとの 生きものたち



永幡嘉之/写真・文
少年写真新聞社 定価1,400円+税

大津波に流された生きものたちはどのように復活し、なぜ消えたのか?被災した海岸の生物を追い続けた写真絵本。

イスタンプルで猫さがし



新藤悦子/作
丹地陽子/絵
ポプラ社 定価1,300円+税

トルコの美しいワン猫に会いたいという口実で、教室から逃げるようにして、父の赴任先のイスタンプルにやってきた愛は…?

中学生の部

コービーの海



ベン・マイケルセン/作
代田亜香子/訳
鈴木出版 定価1,600円+税

座礁したクジラの親子を助けた義足の少女コービー。事故で片足を失い、とまってしまったと思っていた人生が、また動きはじめる。

赤いペン



澤井美穂/作
中島梨絵/絵
フレーベル館 定価1,400円+税

人から人へと渡り歩く「赤いペン」の噂を追う、中学生の夏野。ペンが通り過ぎた5つのお話と人間模様を描く。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会 [検索](#)

北海道の本を読みましょう!

第62回 青少年読書感想文全道コンクール
第42回 北海道指定図書読書感想文コンクール

第49回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ●平成29年1月9日(月)～11日(水)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●札幌市立啓明中学校
 ●札幌聖心女子学院中学校・高等学校
 ●北星学園大学図書館

参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ●150名
参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、11月28日(月)～12月16日(金)の期間に直接FAXにてお申し込みください。
 申込書は、当協会のホームページ「研修講座」からダウンロードしてください。
 申込先 FAX(011) 661-3763
 札幌市立啓寒中学校 本間 由美

A. 共通講座
講演 「アクティブ・ラーニングと学校図書館～学習指導要領改訂の動向をふまえて～」
 帝京大学教育学部 教授 鎌田 和宏

- B. 選択講座：ファーストコース**
1. 講義 「管理・運営」
 全国SLA 学校図書館スーパーバイザー 大久保 雅人
 2. 講義 「図書館活動」
 札幌市立啓寒東小学校 司書教諭 廣澤 由美
 3. 講義 「読書指導」
 全国SLA 学校図書館スーパーバイザー 野村 邦重
 4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」
 札幌市立上白石小学校 司書教諭 山田 佳子

C. 選択講座：ステップアップコース

1. 講義・実習 「授業で使える学校図書館を見に行こう！」
 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 司書 新田 裕子
2. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」
 札幌市立栄小学校 司書教諭 佐藤 広也
3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
 元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤 千鶴子
4. 講義・実習 「子どもと本をつなぐブックトーク」
 苫小牧市立明德小学校 教諭 鈴木 祐亮
5. 講義・実習 「一日まるごとクリニック」
 旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤 直子
6. 講義・実習 「楽しく進める『学び方の指導』」
 全国SLA 学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子
7. 講義・実習 「レファレンスの基本」
 北星学園大学図書館 司書課長 宮川 淳子
8. 講義 「学校司書の仕事」
 北海道学校図書館協会 研究部 谷口 初江

D. 校種別選択講座

1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」
 士別町立土別西学校 教諭 若林 みずほ
2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校・高等学校」
 札幌市立平岸中学校 教諭 小笠原 太郎
3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～特別支援」
 札幌市立平岡南小学校 司書教諭 安藤 理恵子

E. ナイター

1. 出版業界裏話
2. いいマンガあります！
3. 体験！絵本セラピー®

F. 指導者研修講座（全道研究部長会）

1. 第42回北海道学校図書館研究大会(札幌大会)について
2. 支部研究交流
 各支部研究部長
 北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子 (札幌市立上白石小学校 司書教諭)
 北海道学校図書館協会事務局長 黒澤 敏行 (札幌市立琴似中学校 校長)

～研修日程～

1月9日(月)〈かでの2・7、札幌聖心女子学院中学校・高等学校〉

9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	13:30	14:45	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動	E1. 出版業界	E2. マンガ	E3. 絵本	
				C1. 授業で使える学校図書館を見に行こう！					
				C2. アニメーション					
				F1. 研究部長会					

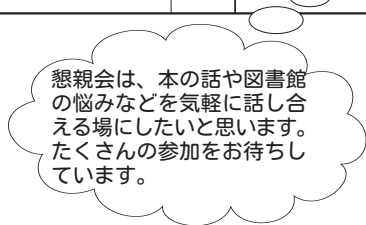
※受付は4階大会議室で行います。直接お越しください。

1月10日(火)〈かでの2・7、札幌市立啓明中学校、北星学園大学図書館〉

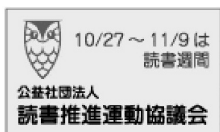
9:30	12:00	13:15	13:30	14:45	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導	懇親会		
C4. ブックトーク		C7. レファレンス(北星学園大)				
C5. クリニック(啓明中)		C5. クリニック(啓明中)				
C6. 学び方の指導		C8. 学校司書				
F2. 研究部長会						

1月11日(水)〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中・高〉	閉講式	
D3. 討議〈特別支援〉	閉講式	



学校図書館情報



◆「いざ、読書。」
2016年 第70回 読書週間 10月27日(木)～11月9日(水)

今年の標語は、「いざ、読書。」。入選者の増井俊資さんの思いは、「本を選ぶのは楽しくもあり、むずかしくもあります。好きな作家・ジャンルあるいは装丁など、なんども目移りしながらようやく選んだ一冊は、はたして自分を震えさせてくれるのか。それは読んでみないとわかりません。満を持しての1ページ。いざ、読書。」というものです。ポスターイラストをつくった、デザイナー吉川ケイタさんのコメントです。「人それぞれの『いざ、読書。』寝る前、通勤・通学中、不意に空いた時間、それは突然やって来ます。そして、一度開けば別世界へ。本はお手軽な魔法のツールなのです。」

◆「札幌市えほん図書館」が11月7日に開館します
札幌市では、絵本を中心に集めた絵本専門の図書館が開館します。

- 所在地 札幌市白石区南郷通1丁目南8-1
白石区複合庁舎(建設中)6階の一部
- 主なサービス内容
 - ・同じ絵本を複数冊そろえます
 - ・楽しく読書できる環境
絵本の表紙が見えるように並べて選びやすくします
声を出して絵本を読むことができます
 - ・子どもへの読書サービス
子どもの年齢にあわせておはなし会
絵本に関するワークショップ
幼稚園や保育園などに出向きおはなし会をする 等
- 開館時間・休館日
 - ・開館時間：9時～17時
 - ・休館日：毎月第4金曜日、
12月29日～1月3日、蔵書一斉点検期間

事務局

事務局長 黒澤敏行(札幌市立琴似中学校校長)
TEL 011-611-1351
FAX 011-615-9617
事務局校 札幌市立平利通小学校
事務局次長 野村邦重
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆**新刊紹介** 楽しく進める「学び方の指導」
—中学校司書教諭のあゆみ—
佐藤敬子著 全国学校図書館協議会発行
定価1,600円(税別) ISBN978-4-7933-0093-6

課題について計画を立て、資料を探し、資料からの情報を吟味・評価・活用して新しい情報を作り、発信して評価を得る。一連の力を児童生徒に身につけさせる「学び方の指導」について、すぐに取り入れられる実践例から、学校全体へ広げていく計画づくりまで、中学校の司書教諭として長年活躍してきた著者の豊富な実践がまとめられています。



◆**第4回学校図書館協会 inオホーツク研修会のお知らせ**
・日時 11月26日(土)14:00～27日(日)10:00まで
・場所 「大江本家」(北見市留辺蘂温町温根湯温泉466-1)
・講師 渡邊重夫氏(元藤女子大学教授)
・参加費 2,000円(会員の方1000円)
・宿泊費 11,000円(ナイターの飲み物代含む)
・問い合わせ 網走市潮見小学校 小松秀治まで
(0152-43-5814)

編集後記

10月に入り寒い日が続いていますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。本号は8月開催の全国学校図書館研究大会神戸大会を始め、各地で開催された様々な大会・行事についてお知らせしています。読書週間に入り、子どもと本を、より一層近づける実践を積み上げていきたいものです。

(編集:杉本 操 村山 知成 野村 邦重)
大久保雅人 黒澤 敏行

ホームページアドレス
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>